

研究分野のキーワード：生成文法，構文研究，統語論，意味論，幼児の言語習得

研究紹介

皆さんが「文法」という言葉を聞くと何を思い浮かべるでしょうか。多くの方は小学校，中学校，高等学校の時に国語や英語の授業で学んだ「国文法」「古典文法」「英文法」を思い浮かべるのではないのでしょうか。これらの文法は，それぞれ，現代の日本語，中世の日本語，現代の英語の文法全般について体系的な説明を与えてくれますが，その一方で，すでに出来上がった内容であり，文法規則や文法用語を理解してひたすら暗記するものというイメージが強いと思います。

しかし，これらとは別に，人間の頭の中に内在化されている言語知識を解明しようという目的で言語学者が構築している「生成文法」と呼ばれる「文法」があります。「生成」という言葉には馴染みがないかもしれませんが，この言葉は，習得した言語知識に基づいて適格な文だけを生成できる能力を明確に規定された規則の体系として記述しようとする，といった意味で使われています。そして生成文法では，言語研究の中心が，次の3つの問いに答えることにあると考えています。

- (1) 言語知識とはどのようなものか。
- (2) 言語知識はどのように習得されるのか。
- (3) 言語知識はどのように使用されるのか。

生成文法は，まず(1)の問いに答えるため，人間の大人は習得した言語について，音声，単語・語の作り方，適格な文と不適格な文の区別・文と文との関係・文の多義性・文を無限に作り出す方法，意味などに関する知識を身につけていると仮定しています。そして，それぞれの知識にたいして音韻論，形態論，統語論，意味論などの理論を立てて，その実体の解明に取り組んでいます。次に生成文法は，(2)の問いに答えるため，人間は生得的に言葉を習得する仕組みを備えていると仮定しています。つまり人間は，言葉に関して白紙の状態で生まれてくるのではなく，もともと遺伝的に決定された言語の素のようなものを持っていて，これが言葉に触れることによって徐々に大人の言語に成長していくと考えています。こう仮定することにより，人間の子供なら誰でも無意識のうちに短期間で言葉が習得できるという事実が自然に説明されることとなります。最後に(3)の問いですが，これは機械翻訳などといった実際の言語使用を対象とする研究分野に影響を及ぼしてきました。

以上，簡単に生成文法の目的と内容を解説してきましたけれども，私自身は特に統語論と意味論で提案されている分析方法を利用して英語のさまざまな構文を研究しています。